

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 11 月 1 日

事業所名 コペルプラス 習志野教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			
	②	職員の配置数は適切である	2	6	児童数を考えた配置数となっている	職員の人数は今後を見据えた人数であり適切である
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		トイレ以外は段差もなくマットもあるの で安全に過ごせる	児童がトイレに行く時には段差に意識が向くよう声掛けをしている為、継続していく
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		毎回療育後は、消毒を行い感染症対策を行っている	これまで通り感染症対策を継続していく
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	1	毎日朝礼を行っている	より良い療育につなげていくように職員間で話し合いをしている
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		評価表での結果をもとに業務改善をしている	結果表は公表し、業務の改善をこころがけていく
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		1 年に 1 回アンケートをし集計し開示している	職員間で集計結果を確認し話し合いを行っている
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	2		第三者評価実施なし
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		研修の機会があれば参加できるような体制はとっている	継続して実施している
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			アセスメントは、6 ヶ月に 1 回実施するようにしている

支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			発達段階シート、アセスメントシートを使用している
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			個別支援計画をよく読んでから療育に入るようにしている
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		カンファレンスは全職員が出勤した時に開催している	カンファレンスは週 1 回開催し話し合いをしており、今後も継続する
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		1 週間に 2 回以上利用の児童は支援内容が同じにならないような工夫をしている	利用回数が多いことは、より上利用の児童は教室の良さを知って頂ける為、もっと多くの方々に利用して頂き教材の良さをアピールできるようにしていく
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせせて児童発達支援計画を作成している	8		児童に合わせた計画を作成している	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝礼時や療育後に話し合いを行っている	児童について連絡事項漏れがないようにする 朝礼の際全体共有している
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	共通事項は支援記録に残し口頭で話しをしている	これからも引き続き、個別、集団、コミュトレの振り返りをしていく
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		療育後、支援記録に残し支援の改善に繋げている	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		期間内にモニタリングを行い見直している	
関係機	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		主に来所された中で参画されている	今後も継続して実施する

関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②②	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	2		対象のお子様なし
	②③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	1		対象のお子様なし
	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	1		対象のお子様なし
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1		未実施であったが、今後も継続して保護者様にご案内し実施予定
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		ご希望者に対して書面にて情報共有をしている	今後もご要望に応じて情報共有していく
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1		
②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	5	園訪問に行く機会を設けている		

	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	5	書面にて参画している	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		来室した際、お子さまの成長の様子を保護者様に伝えている	引継ぎ継続していく
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	5		感染症を気にかけているご家庭が多い為未実施。状況をみつつ実施を検討していく
保 護 者 へ の 説 明 責	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			今後も丁寧な説明となるよう心掛けて実施していく

任等	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			引き続き子育て等の相談をしていく
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7		感染症を気にしているご家庭が多い為未実施。状況を見つつ実施を検討していく
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		相談依頼があれば時間を合わせて相談援助している	今後も継続していく
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		掲示物や LINE、Instagram やブログにて配信している	内容によっては直接ご案内をしている為、今後も継続していく
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8		個人情報の取り扱いには気を付けるようにしている	今後も継続して実施していく
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		分かりやすく丁寧に伝えるように心掛けている	
非常時等の対応	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	7		未実施ですが、機会があれば実施していく
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		職員間での訓練実施の他、ビルの防災訓練に定期的に参加している	ご利用児童や保護者様参加となる教室の防災訓練は今後実施予定
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	避難場所の確認をしたうえで、定期的に訓練を行っている	避難訓練は引き続き実施していく
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	1	アセスメントシートに記入して頂いている	変更の際は、書き足して頂くようにする
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	小麦アレルギーがある児は、小麦粘土を使用しない等、療育に関する	食事提供は無し

				対応は事前に確認している	
④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		ヒヤリハットが出た場合報告書を作成し職員間で確認している	今後も継続していく
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		研修は開催している	引き続き研修を受けていく
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		契約の際、身体拘束に関する説明を行い、同意、署名、捺印していただき個人ファイルに保管している	契約時に説明し、同意を得ている

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。